

# ナシ黒星病の落葉処理マニュアル

平成31年2月作成 富山県農林水産総合技術センター・園芸研究所果樹研究センター

ナシ黒星病は、前年の落葉から飛散する「子のう孢子」が一次伝染源となります。そのため、園地の落葉処理は、黒星病対策として非常に重要な作業なので、産地全体で取り組みましょう。下記の手順を参考により精度の高い落葉処理を毎年実施しましょう。

## 1 事前準備 - 10月下旬 -

落葉前に幹元や園地外周部を除草する。(落葉処理の『①落葉のかき出し』がやりやすい。除草剤等を利用して省力的に行う。)

## 2 落葉処理 - 完全落葉後 (11月下旬頃~2月末) -

### ① 落葉のかき出し 熊手やブローアを用いて、落葉を処理しやすい場所(機械の走行路など)までかき出す

**重要** ・園地外周部や幹元など、機械が通れない場所の落葉は、丁寧にかき出す

#### 作業のポイント



園地外周部は特に落葉が溜まりやすいので注意する



幹元かき出し前



幹元かき出し後



園地外周部かき出し前



園地外周部かき出し後



・「1. 事前準備」を実施しておくことで、幹元、園地外周部の作業が楽になる

・幹元の落葉は、せん定と同時進行でかき出していくと、効率が良い



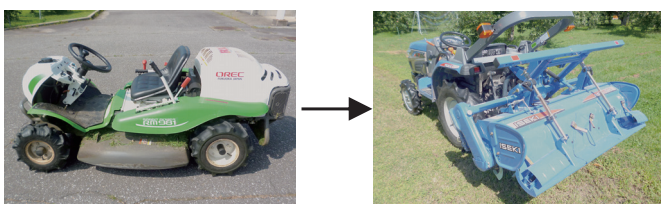
幹元や園地外周部に葉が残っていると、落葉処理効果が十分に発揮されない



・園地外周の側溝にたまった落葉にも気を付ける

### ② 落葉処理方法 所持している機械や園地の条件などを勘案し、「処理の種類」からいずれか1つを選択する

**重要** 各処理の作業時間を目安として、原形をとどめた落葉を残さないように、状態を見ながら丁寧に実施する！

処理の種類	作業時間(速度)の目安と回数	作業のポイント
1. 粉碎処理  乗用草刈機	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回あたり<b>45分/10a</b>(時速約2km)</li> <li>同一園地内で<b>2回以上実施するとより効果が高い</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かき出した落葉を、機械走行路に<b>山盛りにしない</b>(飛び散って、砕き残しの落葉が多くなる)</li> </ul>
2. 中耕すき込み処理  ロータリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>低速ギアで<b>1時間45分/10a</b>(時速1km以下)</li> <li>同一園地内で<b>1回実施</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中耕すき込み処理する園地内では、<b>せん定枝の粉碎を控える</b>(せん定枝チップのすき込みは、白紋羽病の発生を助長する恐れがあるため)</li> <li>ロータリーの回転方向は<b>正転</b>、中耕深度は<b>5cm程度</b></li> </ul>
3. 粉碎+中耕すき込み処理 	①粉碎 <b>30分/10a</b> (時速約3km) ②粉碎後、中耕すき込み 中速ギアで <b>45分~1時間/10a</b> (時速1.5~2km) ・同一園地内で <b>1回実施</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>走行速度が速いと、すき込み不足になったり、落葉が地表面に浮き上がったりするので、状態を確認しながら<b>ゆっくり行う</b></li> </ul>
4. 収集持ち出し処理 ブローア、熊手、芝刈り機等	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>集め残しが無いように</b>、完全落葉後に収集する</li> </ul>	<b>注意点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>収集した葉は、園地外で適切に処分する</b></li> </ul>

## 3 処理の見直し - 3月中旬まで -

3月下旬頃から黒星病の子のう孢子の飛散が始まる。地表面の落葉の状態を確認し、原形をとどめた落葉が多く認められた場合は、3月中旬までに、上記を参考に再度処理を行う。



原形をとどめた落葉



理想的な落葉処理後の地表面

**注意点** 園内の轍(ワダチ)や、園地外周部、側溝などに落葉が残りやすいので要チェック!

☆マニュアルに関する問い合わせ：富山県農林水産総合技術センター園芸研究所果樹研究センター (Tel:0765-22-0185)